

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
88	川崎市立登戸小学校	田中 克義

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的創造的に考える子どもを育てる ・人間性に満ちた、心豊かな子どもを育てる ・健康で、明るく、たくましい子どもを育てる ・強い意志を持ち、最後までやりぬく子どもを育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○育成すべき資質・能力「自ら学ぶ力」「人間関係形成力」「自立的活動力」 ・自主 主体的に考える子どもの育成 (授業の充実) ・協働 共に支え合う子どもの育成 (心の教育の充実) ・自立 自分から気づき考え行動する子どもの育成 (実践的活動の充実)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に沿って、各教科の基礎・基本の定着と考える力の育成に努める。 ・国語科の授業研究に取り組み、児童が作品を読み深める学習を通して、自分の思いや考えを自分の言葉で表現力の定着を図る指導の研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会の教材研究を通して各教科の基礎・基本の確認と定着を図った。 ・国語科の授業研究を通して、言葉を正確に捉え、自分なりの考えをもち、対話的な関りの中で読みを深める指導法を研究し、読みを大切にしながら表現力を育む学習を全校で取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習評価の実践と学年内の情報交換を大切にすることで子ども達の学習状況を把握し、指導の工夫を重ねていく。 ・次年度も国語科の授業研究を行い、国語科のねらいを学校内で共通理解した上で、児童の主体的で対話的な学びに繋がる指導の向上をめざして研究を進めていく。
2 地域学習・体験学習 保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を生かした学習活動や金管バンドの地域でのコンサート活動、幼保小中の連携など、家庭や地域の教育力、人材を積極的に取り入れ、教育活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各位との連絡を取りながら地域の方々と連携した授業実践を行った。幼保小中の連携事業を継続して実施し、児童の貴重な体験活動の一部とした。今年度は、150周年記念式典等の行事が実施されたため、金管バンドが地域のイベントに参加することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実感を伴った理解を図るために、今後も地域学習や体験学習を継続して実施していく。幼保小中の連携事業については交流の内容を工夫して、園児、児童、生徒との関りを更に充実させたい。金管バンドの活躍の場を維持するために、地域イベントへの参加等、地域や関係機関との連携を進めていきたい。
3 児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題について、学年・学校の協力体制をつくり、家庭との連絡を密にしながら解決に努める。 ・ケース会議を必要に応じて開催し、学年と支援教育コーディネーター、養護教諭等と連携し、一人一人の特性を考慮しながら、きめ細かな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解部会を毎月1回開催し、様々な児童についての共通理解を確実に言い、個人に対応した指導、支援を行った。 ・必要に応じてケース会議を行い、きめ細かな指導や支援について協議し、様々な課題への支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童理解部会を中心に児童への指導や支援の方向性や共通理解を図る。また、保護者との連携、支援教育コーディネーターや外部機関との連携を行い、より適切な指導を心掛ける。
4 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターと協力して、個別支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かい教育を計画し実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に一人一人の教育的ニーズに沿った指導に努めた。個別指導の希望数が多いことから、実施回数等の課題がある。支援教育コーディネーターへの相談、スクールカウンセラーの利用が増えてきた。支援教育コーディネーターの役割について保護者の理解が得られるよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実を図るために、年度初めに特別支援教育や教育相談の大切さを全教職員に伝えていく。個別指導については、校内体制や個別指導の実施方法等を見直し、適切に対応できるようにしていく。児童がいつでも支援教育コーディネーターに相談できるように、その役割も児童に積
5 安全管理 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭、地域が連携して、地域ぐるみで子ども達の安全を守る。 ・児童の健康について管理職と担任、養護教諭の連絡、報告、相談を密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の見守り活動により児童の登下校の安全が保たれている。学校でも下校指導を定期的実施し、地域との連携を図っている。防災対応については、避難訓練、引き取り訓練を計画的に実施し、児童の防災意識を高めることや学校防災についての理解と協力を得ることに努めた。 ・児童のけがや病気に適切に対応するため、管理職と養護教諭、担任との連携を心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも緊急時の対応を迅速かつ確実にに行えるように、今後も全職員でしっかりと訓練や対応の確認をしていく。また、子どもの安全意識を高めるために、計画的な訓練等の取り組みを継続して行っていく。 ・児童の健康についての意識を高めるために、学校保健委員会・学校給食委員会を中心に健康教育や食育の学習の推進をて取り組んでいく。

6	教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全で快適な学校生活のための環境整備を企画・推進する。 ・よりよい授業づくりができる教育環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全とよりよい教育環境作りに心掛けて取り組んだ。150周年を迎え、校舎内の綺麗な環境を今後も維持していくことや植物栽培等を中心に校舎外の環境にも目を向けた整備にも力を入れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による安全点検と環境整備を継続する。校舎内にある掲示板の積極的な活用も継続し、児童の作品掲示や児童会活動による掲示によって、児童の学習や生活の意欲を更に高めていく。児童の栽培活動を中心とした緑化を進め、校舎外の環境を明るくあたたかな雰囲気を保てるようにしてい
7	情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・配信メールを積極的に活用し、予定の変更や緊急時の対応等、児童、保護者に必要な情報を迅速に配信する。 ・本校の教育方針や教育活動について保護者、地域から理解と協力を得るために、ホームページで学校の様子や予定等の情報を積極的に配信す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの定期的な更新を行い、保護者に必要な情報を伝えることができた。様々な教育活動について保護者や地域の理解や協力を得るために、ホームページで学校の教育活動の様子を更に伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新を期限内に行うことを継続させていく。保護者のニーズに合った情報を定期的に発信することを心がけていく。
8	組織運営 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題については必要に応じて適宜話し合いを設け、全教職員が共通理解のもと迅速な対応を行う。 ・教員の資質向上を図るための適切な研究・研修を企画、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの分担を責任持って行き、教育活動が円滑に行われるように努めた。 校内研を全校で取り組み、教職員の授業力向上に努めることができた。また、教職員が外部の研究・研修に参加しやすい体制づくりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い教員が増える中、教員全体の質的向上を図るうえでミドルリーダーの指導力向上が必須である。管理職、教務主任、支援教育Co、学年主任がミドルリーダーを育てることを意識し、どんなことでも声をかけあえる雰囲気をつくる。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校の様々な取り組みが地域・保護者・教職員が相互に連携し、児童の学習環境や生活環境を支えている。今後も児童の安全を第一に、見守る活動を地域と学校が一体となって取り組んでいきたい。創立150周年記念として地域学習資料が作られた。資料を活用してより効果的な地域学習や体験学習になることを期待したい。安心・安全な学校にむけて校内であいさつ運動が行われているが、学校外での地域の方々とのあいさつが更に進んで行えるように、地域の見守り活動でのあいさつや児童との関りを今後も大切にしてい</p>	<p>教職員は学校教育目標の実現に向けて、教科指導や児童指導、創立150周年記念式典等の学校行事に取り組んできた。様々な教育活動を実施してきたことで、児童の学びに向かう力やよりよく人と関わる力、主体的に活動する力などの定着が徐々に見られるようになってきた。個人差に対応し、児童の力を更に引き出すためには、全教職員の指導内容・指導法への共通理解とより実践的なカリキュラムづくりに取り組んでいく必要がある。また、児童が抱える様々な課題に対して、支援教育コーディネーターを中心とした児童支援体制による組織的な対応と、児童や保護者に寄り添い、学校、保護者、外部機関と連携した対応を進めていく。</p>